

.....編集後記.....

◆これまでの原稿を受け継いで本号の編集を担当しました。委員会を代表して、ご投稿くださった皆様にお礼申し上げます。

◆工業技術院のまとめによると、院内の研究所のうち、最近1年間で主要全国紙の記事に登場する回数では、地質調査所がトップだそうです。雲仙火山やピナツボ火山の噴火、エジプトやインドネシアの地震、環境問題やIGCの開催など地質学が関係するニュースが続いたことが効いたようです。

◆しかし、地質ニュースの年間総目次を見ると、これらのテーマを記事にする努力が足りなかったと反省しています。

◆上記の工業技術院の調査によると、経済や工業などの専門紙を含めると当所以外の研究所の記事が多く、地質調査所は総合2番目になるそうです。地質関連の記事を重点的に扱う専門紙がないからでしょう。ここにも地質ニュースの存在意義があると思っています。速報性では新聞などと比べて競争になりませんが、多少遅れても新しい確実な資料にもとづき、専門的な観点から総合的にまとめた記事が必要であると思っています。

(幹事 奥村公男記)

.....  
〔誤植訂正〕

11月号グラビア第2ページ本文3行目  
1万位年前(誤)→1万年くらい前(正)

原稿募集中!

地質ニュースに寄稿される方へ

1. 地球科学各分野の最近の話題・総説・解説など多方面の原稿を募ります。
2. 原稿は図・表・写真を含め、原則として刷上がり15ページ以内とします。これをこえる場合は事務局に相談して下さい。地質ニュース原稿用紙(25×18字)4枚半が1ページに相当します。
3. ワードプロセッサ使用の場合も、A4判用紙に1行23字とし、行数は20-25行程度として下さい。
4. 句読点・引用符などもすべて1字として下さい。
5. 図・表・写真は本文とは別に1ページとして、それぞれに番号をつけるとともに、希望する掲載サイズを余白に記入して下さい。これらにつける説明文は、本文とは別の原稿用紙に書いて下さい。とくに図と写真は、縮小率を考え鮮明なものを提出して下さい。
6. 原稿の右欄外に図・表・写真の希望する挿入位置を鉛筆で記入して下さい。
7. 表紙やグラビアに用いるカラー写真は、プリント版の他に原版のポジ(スライド)を提出して下さい。プリント版のみの場合は、カビネ〜六切サイズ(表紙は六切)のものに限ります。
8. 原稿は事務局に提出して下さい。編集委員会から受付カードを発行します。掲載は原則として受付順としますが、速報性の高いものは優先的に印刷したいと思います。

<地質ニュース編集委員会>

購読者募集中 申し込みは編集委員会へハガキで

地質ニュース編集委員会

委員長: 佐藤壮郎

副委員長: 佐藤興平・磯部一洋

幹事: 宮崎光旗・奥村公男

委員: 柴田賢・滝沢文教・岡村行信・村岡洋文・

渡部芳夫・井内美郎・金沢康夫・佐藤岱生

事務局: 総務部業務課広報係(山口秀樹・清水真寿美)

〒305 つくば市東1-1-3 地質調査所

地質ニュース編集委員会

事務局 Tel. 0298-54-3520

Fax. 0298-54-3533

地質ニュースに対するご意見は編集委員会へ

地質ニュース 第460号 1992年12月号  
定価 ¥ 770 千実費

1992年12月1日 発行

編集

発行人

発行所

工業技術院地質調査所  
林久雄  
株式会社実業公報社  
東京都千代田区九段南4の2の12  
〒102

Tel. (03)3265-0951 (代表)

振替口座 東京1-32466

麹町局私書箱第21号

印刷

小宮山印刷工業株式会社

©1992 Geological Survey of Japan

●本誌は東京都の霞が関政府刊行物サービスセンター、八重洲ブックセンター(株)本店およびつくば市の友朋堂書店本店に常備してあります。品切れの際は店頭で注文してください。